資格の学校 TAC

平成 27 年度　裁判所一般職採用試験
論文　【解答例】

問題

いきいきとやりがいを持って働くことができる良好な職場環境を整える上で，あなたが重要と考える要素を検討し，その実現に向けた方策について論じなさい。

解答のポイント

まず，挙げた要素と「いきいきとやりがいを持って働くことができる良好な職場環境」の関連を明確に説明しておきたい。また，問題文では「職場環境を整える」ということが問われているので，職場環境に関すること以外の方策は論じないように注意しておこう。

解答例

いきいきとやりがいを持って働くことができる良好な職場環境を整える上で重要な要素は，労働時間の適正化と，成し遂げた仕事に対する適切な評価であると私は考える。

近年，労働時間の伸長に伴い，労働者の健康が損なわれることが問題になっているが，健康でなければいきいきと働くことはできない。また，長い時間をかけて仕事をただ消化していくだけの職場では，働くうえでの喜びや楽しみ，すなわちやりがいは感じにくいだろう。

また，成し遂げた仕事に対する反応がなければ，働く者がやりがいを感じることは難しい。職場で自分の仕事への適切な評価を得られれば，働く者は仕事の成果を確認でき，働くうえでの喜びや楽しみを感じられるだろう。そして，次の仕事にも精力的に，つまりいきいきと取り組むことができると考えられる。

労働時間の適正化については，現在ノー残業デーや残業申告制の導入，年次有給休暇の消化推進といった取り組みを行っている企業などが増えている。しかし厚生労働省の調査によれば，平成 25 年の年次有給休暇取得率は 48.8%であり，労働時間が適正化されているとはいい難い。我が国においては，長時間働くことをよしとする労働観があるとしばしば指摘されており，そうした労働観が労働時間の伸長の原因の一つだといえる。それを改善し，労働時間の適正化を実現するには，職場の意識改革が必要である。具体的には，職場において上の立場にある者が効率的に仕事を行い，積極的に休暇を取ったり，残業を減らしたりすることで，それ以外の者も労働時間の短縮が悪ではないという意識を持つようになると考えられる。それによって労働時間が適正化されれば，健康を維持しながらメリハリをつけて働くことができるようになるだろう。

また，仕事に対する評価に関して，企業などは人事評価シートの活用，定期的な面談といった様々な取り組みを行っているが，そうした評価を適切なものにするために必要になるのが客観的で多面的な評価基準である。評価基準が評価者の曖昧な主観によるものであると，評価の説得力が弱くなってしまいかねない。客観的な評価基準を設けることで，働く者の納得につながるはずだ。さらに，なされた仕事を様々な面から評価すれば，働く者は自分の仕事の成果をより具体的に理解することができるし，その仕事の優れていた点だけでなく足りなかった点も明確に提示することによって，働く者が自分の欠点を克服するというやりがいを持つようになることも考えられる。また，例えば「効率的に仕事を行えたか」という評価基準をとり入れれば，労働時間短縮の一助にもなるだろう。

※この解答例の著作権はＴＡＣ(株)のものであり、無断転載・転用を禁じます。

いきいきとやりがいを持って働けるようにすることで，離職率の低下などといった職場のメリットも生じると考えられる。よって，以上のような方策で，良好な職場環境を整える必要がある。

以上

（約 1, 160 字）

TAC 公務員講座
※この解答例の著作権はＴＡＣ(株)のものであり、無断転載・転用を禁じます。